

北海道佐呂間町における竜巻に関する対応（第4報）

平成18年11月9日

18	:	00	現在
国	土	地	理
院			

これまでの国土地理院の対応は以下のとおりである。

1. 気象の概要（11月8日 16時30分現在：気象庁）

（1）当時の状況

7日13時には発達中の低気圧が宗谷海峡付近にあり、その中心から延びる寒冷前線が、北海道の中央部を東進しながら通過していた。

このため、大気の状態が不安定となり、7日13時30分頃活発な雷雲が佐呂間町付近を通過した模様。

網走西部には、7日6時46分に雷、強風、高潮、波浪注意報を発表していた。

（参考）気象庁では1971年以降の被害のあった竜巻を調査しているが、この付近では報告されていない。

（2）佐呂間町で発生した突風について

気象庁による現地調査の速報によると、佐呂間町で発生した突風は、7日13時20分頃から13時30分頃にかけて、南西から北東に向かって進んだ竜巻によるものと判断される。

被害地域の形状は、長さ1km、幅200mの細長い帯状であった。

佐呂間町では、「多数の住宅の屋根がはぎ取られ、倒壊したものもあった」、「自動車が吹き飛ばされた」などの被害状況から、竜巻の強度は藤田スケールで2以上と考えられる。

（参考：藤田スケール）

被害の状況から見積もる竜巻の強さ（風速）の指標の一つ。竜巻研究の第一人者、シカゴ大学藤田哲也教授が提唱したもの。

スケール0から5まであり、スケール2は風速50～69m/s（約7秒間の平均）である。

2. 体制等

11月7日（火）14時30分 北海道における突風災害に関する災害対策会議（委員長：企画部長）を設置。

11月8日（水）10時00分 第1回災害対策会議を開催。

11月9日（木）18時00分 注意体制。

3. 被害状況

1) GPS観測点

竜巻の影響による被害無し。

4. 主な活動状況

1) 情報収集等

現地との連絡を確保し情報を収集。

2) ホームページによる情報提供

- 11月8日(水) 11時00分 国土地理院ホームページに「北海道における突風災害関連ページ」を開設。
<http://www.gsi.go.jp/BOUSAI/h18topuu/index.html>
・国土地理院の対応を掲載。
・突風災害被災地区(佐呂間町若佐地区)周辺の地形的特徴を掲載。
- 〃 17時00分 ・北海道における突風災害付近の地形図を掲載。
・北海道における突風災害付近の空中写真を掲載。
- 11月9日(木) 10時30分 北海道佐呂間町周辺の地形を掲載。
- 〃 11時00分 北海道佐呂間町若佐地区の竜巻による被害状況を掲載。
- 〃 13時00分 ホームページの名称を「北海道佐呂間町における竜巻関連ページ」に改称。
・平成18年11月8日撮影の北海道佐呂間町若佐地区空中写真を掲載。

4. 会議等への出席

- 11月7日(火) 18時30分から内閣府で開催の「北海道における突風災害に関する災害対策関係省庁連絡会議」に防災企画官が出席。
- 11月9日(木) 17時30分から内閣府で開催の「北海道佐呂間町における竜巻災害の復旧に関する関係省庁連絡会議」に企画部長が出席。